Lagrangian point

-パースペクティブカスタマイズ-

石場 文子・多田 圭佑・横山 奈美

2015年6月16日［火］── 6月28日［日］ 11：00～19：00

＊月曜日休廊・金曜日20：00まで・最終日18：00まで

オーガナイズ：大崎のぶゆき（愛知県立芸術大学准教授）　主催・企画：愛知県立芸術大学 大崎研究室　協力：Gallery PARC

本展は、愛知県立芸術大学油画専攻の在学および卒業生による展覧会として企画したものであり、彼らが日本の中間地点「愛知」という場所で思考したこと、表現しつつあるものを紹介することでその「視点」を考察する試みです。
「愛知」にはいわゆる日本のアートシーンにおける「ラグランジュポイント※」として独自の空気感と表現に対する意識が存在しています。
それは「西」と「東」の「中間」に位置するという対比構造や地理的条件などの影響をも含め、様々な引力の中間地点とするベクトルが均衡した特殊な「重力場」のようであるといえ、この特徴はこれまで愛知県立芸術大学出身者を含めた愛知をルーツとする多くの作家達が活躍する中で注目されるものでしたが、現在ではあまり触れられることがないように感じます。
2回目となる本展では、副題を「パースペクティブカスタマイズ」として絵画や版画を制作する3人の作家を紹介いたします。

石場文子は彼女の日常の中で錯視的に見る「面」に注目し、シルクスクリーンや写真を用いて恣意的にこの視覚に介入する作品を制作しています。石場は街で見かける赤いコーンや服のストライプ、看板といった物から視覚的な認識のズレが発生し、色面や柄面に見えたことから「見る」こと「認識すること」という私たちの視覚認識に問いかける作品を制作しています。今回の出品作は部屋のソファーを写した写真作品ですが、一緒に写される「色面」が錯視的にクッションやカーテンに見えるという風に恣意的に視覚に介入することで私たちの認識ズレ、視覚のズレをあらわにしています。

多田圭佑は壁面に残るテープやステッカーの痕跡を「絵画」として再構築し、これらの存在について思考する絵画を制作しています。今回の出品作「existence」のシリーズである「sticker」「wood」の平面作品は、木の板やフローリングにシールが貼られたように見える作品です。一見、ただそれだけに見える表面であるが、実はこれらのすべては「絵具」の集積で作られており、画面に絵具が乗る、イメージがある、という絵画の基本的事項に対して、表象の問題やイメージの問題を唯物論的に問い直しながらその存在について思考しています。

横山奈美は大正～昭和初期の「日本の洋画」を想起する重厚な表面を持ちながら、生活の中にある「少し悲しいものたち」を描き出します。
横山は「ブリトニー・スピアーズになりたかった、憧れは外国人で、濃い化粧をしてウィッグを被れば、そうなれると思っていました。」と語る憧れや願望が、大人になって「そうなれると思っていたけど、なれない。」という、あらがう事の出来ない文化的・人種的な相違に対し、彼女が日本人として、また絵描きの視点から自身の歴史性にベクトルが向いたことが契機となって一連の絵画作品を制作しています。彼女が敬愛する岸田劉生といった大正～昭和初期の「日本の洋画」をイメージする重厚な表面をもちながらも、その重厚さのイメージから相反する「もやし」や「トイレットペーパ」といった「少し悲しいものたち」を描く彼女の視線はひょっとすると私たちのポートレイトなのかもしれません。

彼らの視点とは絵画や版画といったメディウムを基盤に「歴史」「空間」「眼差し」を日々の視点で再構築し、見慣れた風景を新たな風景にカスタマイズして、描くための消失点を見いだそうとする試みであります。様々な表現がある中で「絵画」や「版画」を基軸に据え、思考する彼らの方法論の中から「ラグランジュポイント」としての魅力を見る事が出来ればと考えています。

（大﨑 のぶゆき）

石場 文子 ISHIBA AYAKO

***I-01.* ベランダ**
インクジェット（シルクスクリーンほか）　2015

***I-02.* ソファと□のある風景　＃2**
インクジェット（シルクスクリーンほか）　2015

***I-03.* ソファと□のある風景　＃1**
インクジェット（シルクスクリーンほか）　2015

意識しているわけでもないのに、ふっと目を引くものが多々あります。
それは誰かの服の模様だったり、道に落ちているモノだったり様々ですが、反射的に目がそれらに向きます。その時は色だけが目に入り、それには物質の厚みや重なり、二次元三次元もありません。色が目に入った後で、厚みや重なりなどまわりが見えて、そこでやっと服だと認識するのです。
何かが目を引き、それが○○だと認識するまでの時間、もしくは目に入った情報（色）とモノそのものに対して、わたしは何かしらのズレを感じています。
そのズレとは一体何なのか、そもそも我々は何をもってモノをモノと見ているのか。
虚実の入った風景を提示することで自分たちに見えているモノが何なのかを問いていきたいです。

1991年 兵庫県生まれ。
2014年 京都嵯峨芸術大学造形学科版画分野 卒業。
2015年 愛知県立芸術大学 美術研究科博士前期課程油画・版画領域 在籍。

個展
2013 「House」 KUNST ARZT、京都

主なグループ展
2013 「one room」 京都嵯峨芸術大学
2014 「図らずもあったこと」 京都嵯峨芸術大学
「京都嵯峨芸術大学第42回制作展」 京都市美術館
「～2014」 愛知県立芸術大学資料館
「交差する版画 D×PRINTS」 名古屋造形大学
2015 「4つの咀嚼」 愛知県立芸術大学学食2階
「INDIRECT' 15」 愛知県立芸術大学サテライトギャラリー

＊7月7日（火）～12日（日）までKUNST ARZT（京都）にて個展開催予定

多田 圭佑 TADA KEISUKE

***T-01.* existence / sticker / flower #1**
綿布にアクリル　2015

***T-02.* existence / sticker / star #1**
綿布にアクリル　2015

***T-03.* existence / sticker / emblem #1**
綿布にアクリル　2015

***T-04.* existence / wood #3**
綿布にアクリル　2015

在ることと無いこと、本当と嘘、相反する事柄の間にある曖昧な状態やことに興味があります。
フラットなディスプレイの中に広がる情報や現実と見紛う空間壁面に残るテープやステッカーの痕跡、そこに貼られていたポスターを想像すること。
そこに在った、存在した、ということが作品を作っていく切っ掛けになっているのです。
その関係性を多方から示すことは、"存在" とは何かを明らかにする手がかりになると考えるからです。

1986年 愛知県生まれ。
2010年 愛知県立芸術大学美術学部油画専攻卒業。
2012年 愛知県立芸術大学 美術研究科博士前期課程油画・版画領域修了。

おもな個展
2007 「多田圭佑　個展」 名古屋造形芸術大学
2008 「independence by mind」 カフェパルル、愛知
2014 「HE TRACE」 愛知県立芸術大学サテライトギャラリー
「カヤバコーヒー 壁プロジェクト」 カヤバコーヒー、東京

おもなグループ展
2008 「SEPTEMBER」 市民ギャラリー矢田、愛知
「ART×ART」 愛知県美術館
2009 「CIRCLE」 愛知県立芸術大学旧教員官舎
2010 「物語りの伏線 part2」 ギャラリーMoMo ryougoku、東京
「CIRCLE 2」 愛知県立芸術大学サテライトギャラリー
「都市の断片」アーバンリサーチギャラリー、愛知
2011 「トーキョーワンダーウォール公募 入選者作品展」東京都現代美術館
「DREAMING THE WORLD」 女木ハウス、香川
2013 「relational map」 STANDING PINE、愛知
「TRICK-DIMENSION」 TOLOT heuristic SHINONOME、東京
「CIRCLE 3」 ターナーギャラリー、東京
2014 「Some Like It Witty」 Gallery EXIT、香港

＊7月4日（土）～30日（木）までJIKKA（東京）にて個展開催予定

横山 奈美 YOKOYAMA NAMI

***Y-01.* 横たわっている**
麻布に油彩　2015

***Y-02.* 遠くの柱**
麻布に油彩　2015

***Y-03.* 遠くの流氷**
麻布に油彩　2015

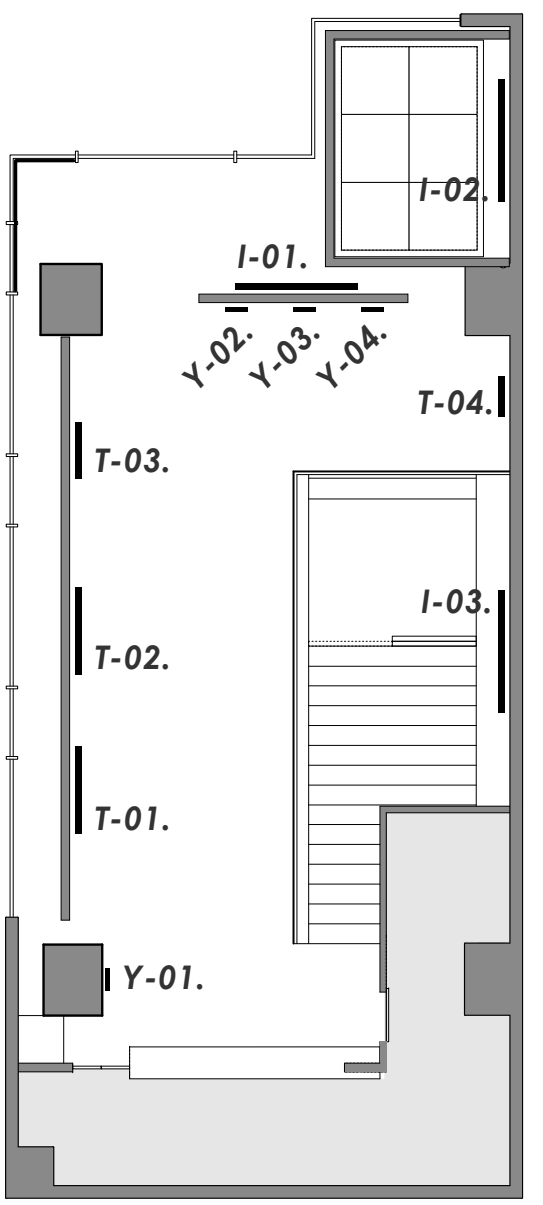
***Y-04.* 遠くの岩**
麻布に油彩　2015

中学生の時にブリトニー・スピアーズに、高校生の時はキルスティン・ダンストに憧れていました。
いつも憧れは外国人で、濃い化粧をしてウィッグを被れば、そうなれると思っていました。
休日は街へ出てギャルショップに行き、緊張しながらお小遣いでミニスカートとチューブトップを買いました。
ゴシップ雑誌を見て化粧を練習しました。
頑張りましたが、ブリトニーにもキルスティンにもなれませんでした。鏡を見て、なれないのに憧れ続ける自分に何度も落胆しました。
現在は、絵画制作をしています。
どうしようもない自分と重なり合う、少し悲しいものたちを日常から見つけ出し、それを描いています。
そのモチーフが、ただの悲しいものから壮大なものや風景に見える瞬間があります。
その瞬間をずっと留めておくために描いています。

1986年 岐阜県生まれ。
2010年 愛知県立芸術大学美術学部油画専攻卒業。
2012年 愛知県立芸術大学 美術研究科博士前期課程油画・版画領域修了

おもな個展
2011 「軽快ないたずら、歪んだ風景」 名古屋市民ギャラリー矢田
2012 「横山奈美 個展」 Hidari Zingaro、東京
2013 「１＝∞の証明」 JIKKA 実家、東京
2014 「それは山であり、川でもあった。昨日は私自身でもあり、夫でもあった。」 HARMAS GALLERY、東京
「風景」 GALLERY M contemporary art、愛知

おもなグループ展
2009 「スーパー・ナチュラル・パワー」 名古屋市民ギャラリー矢田
2010 「1000hinten」 hinten、愛知
2011 「わくわくSHIBUYA」 トーキョーワンダーサイト渋谷
「petit GEISAI#15」 東京都立産業貿易センター７F
「ワンダーシード2012」 トーキョーワンダーサイト渋谷
2012 「扉を開けたり閉めたり」 TALION GALLERY、東京
2013 「武藤江美奈 横山奈美展」 ギャラリーM、愛知
「Draw the world-世界を描く」 アートラボあいち
「CIRCLE 3」 ターナーギャラリー、東京
2014 「手探りのリアリズム」 豊田市美術館
「After History」 NADiff a/p/a/r/t、東京
2015 「VOCA展2015」 上野の森美術館、東京

受賞
petit GEISAI#15 審査員 桑久保徹賞
愛知県立芸術大学2012 作品優秀賞／学生優秀賞

パブリックコレクション
愛知県立芸術大学資料館